



# 連携室便り

発行日：28年4月

取手北相馬保健医療センター

医師会病院

—医療連携室便り—

—第34号—

春暖快適の候、先生方におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。また平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年度は、秋に日本医療機能評価機構の認定を受けました。この時期は、群馬大学の腹腔鏡手術の問題がメディアを賑わせていて審査は従来にない厳しいものになりました。その中で病院スタッフは、チームワークを発揮し非常に良く対応してくれました。これらの作業過程で得た経験は、これからの病院運営のため必ず役に立つものと思っています。

さて新年度もいよいよスタートとなりました。ご存知の通り今年度は、診療報酬改定の年となっています。当院も十分な対応策をとり引き続き先生方のお役に立てる病院となるように努める所存であります。病院にとりまして今回の改定の要点は、①緩和ケアを含めたがん診療の充実、②認知症対策、③在宅復帰を目指す地域包括的ケア、④チーム医療の充実、⑤薬剤使用量の削減

等にあると考えています。これらのことは、従来より当院が目指してきたものでありむしろ歓迎すべき点多々あります。地域の住民のためがん難民を出さないという方針の下、国立がん研究センター東病院、筑波大学との連携をますます強化して診断から治療、最終的には緩和ケアまで引き続き積極的の行っていくつもりです。認知症に関しましては、神経内科外来の対応と入院においては内科医の認知症研修の受講促進で先生方の紹介に対応してまいります。

認知症も含め在宅ケアの道筋構築のために、取手市医師会在宅いきいきネットの先生方との連携を強化し、昨年以上の在宅カンファの開催、復帰率の向上を目指します。また日本大学総合内科の研修施設としての認定を得ていますので早ければ今年度中にも地域医療の項目で当院赴任の総合内科医が先生方のご指導を仰ぐ機会もあると思いますのでその際にご指導宜しく願います。

患者紹介はもちろんですが、共同利用施設として画像診断（CT、MRI、超音波、内視鏡）血液検査などの予約、受注も積極的に行っていますので連携室にご一報下さい。まだまだ問題はありますが、昨年度改善が確認された病院の収支状況を、今年度安定軌道に乗せるためには先生方のご指導、ご協力が是非必要です。引き続き宜しく願います。



取手北相馬保健医療センター  
医師会病院

病院長 鈴木武樹

# 春



日本医療機能評価機構  
認定第 JC2061 号

# 血管エコーについて

循環器科 副病院長 渡邊 寛  
放射線科 診療放射線技師 大石武彦

いつも医師会病院をご支援いただきありがとうございます。近日は血管エコーの検査依頼も増加しておりますので少しご説明させていただきます。

画像診断分野における超音波検査の進歩は、腹部・心臓・血管・表在のいずれの領域においても目を見張るものですが、血管領域の進歩も例外ではありません。無侵襲で反復検査が可能、かつ形態と機能（血流の可視化など）が同時に検査できる点が有益です。また、血管診療においては、診断から治療中（手術中など）、術後まで評価することができます。当院ではその評価にあたり、日本血管外科学会、日本脈管学会、日本静脈学会、日本動脈硬化学会の4学会構成による血管診療技師認定機構の資格認定を受けた血管診療技師（Clinical vascular technologist：CVT）が2名常勤で勤務し対応しております。緊急の検査にも対応できるように努めてまいりますのでご利用下さい。

ここからは、血管領域のエコーをご依頼いただく際にお願したい点を記載いたします。血管領域のエコーは、動脈系と静脈系に大きく分類されます。さらに頸動脈検査と下肢を中心とした末梢血管系の検査があり、当院ではそれぞれを別枠の検査予約としてお受けしています。

（1）頸動脈エコー：高脂血症などの加療中のスクリーニング目的の頸動脈エコーでしたら、連携室に“頸動脈エコーの予約”とご指示下さい。

（2）下肢動脈エコー：足関節/上腕血圧比（ABI）とセットで行いますと効果的です。ABIは予約無しでもできますので、下肢動脈の疾患が疑われる場合は、まず循環器科にご紹介下さい。ABIによるスクリーニング後にエコーなどを行い迅速にご報告いたします。

（3）下肢静脈エコー：静脈瘤の精査と、肺塞栓の原因となる深部静脈血栓症検査をお受けしています。静脈瘤と深部静脈血栓症の検査は、方法も時間も大きく異なります。静脈瘤でのご紹介は、循環器科へご紹介いただくか、“下肢静脈瘤エコーの予約”とご指示下さい。また、下肢の著明な腫脹や痛みなど、深部静脈障害が疑われる場合はD-ダイマー迅速検査などのスクリーニング検査と並行で拝見できます。こちらは肺塞栓など生命に関わる場合もありますので、循環器科または内科に“至急の受診依頼”でご紹介いただければ幸いです。

今後も皆様にご利用いただきやすい“血管検査”を目指してまいりますので何かございましたら、医師の渡邊や連携室に、ご連絡いただけますようお願い申し上げます。

ここから、下肢血管エコー検査（下肢深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、下肢動脈）の概要についてご説明いたします。

## 【下肢深部静脈血栓症】

鼠径部から下腿にかけてゼリーを塗布して観察するため、男性は下着一枚、女性は下着の上に検査用のパンツを履いて検査をします。検査は仰向けの状態で、大伏在静脈-大腿静脈接合部から浅大腿静脈にかけて観察し、検査ベッドの背もたれを約30~40度上げ静脈を拡張させた状態で、膝窩静脈、下腿の後脛骨静脈・腓骨静脈、下腿筋肉枝（ヒラメ筋、腓腹筋）を観察します。検査では、Bモード断層法、カラードプラ法、パルスドプラ法による呼吸性変化、静脈圧迫法を使用して血栓の有無と範囲を評価します。検査時間は約15分です。検査レポートには、血栓の有無、血栓があった場合は、血栓の範囲と病期（急性、亜急性、慢性期）を記載し、必要に応じてシェーマを添付します。



症例：総大腿静脈の血栓。中枢端が静脈壁から浮遊している（左）。ヒラメ静脈に充満した血栓（右）。

### 【下肢静脈瘤】

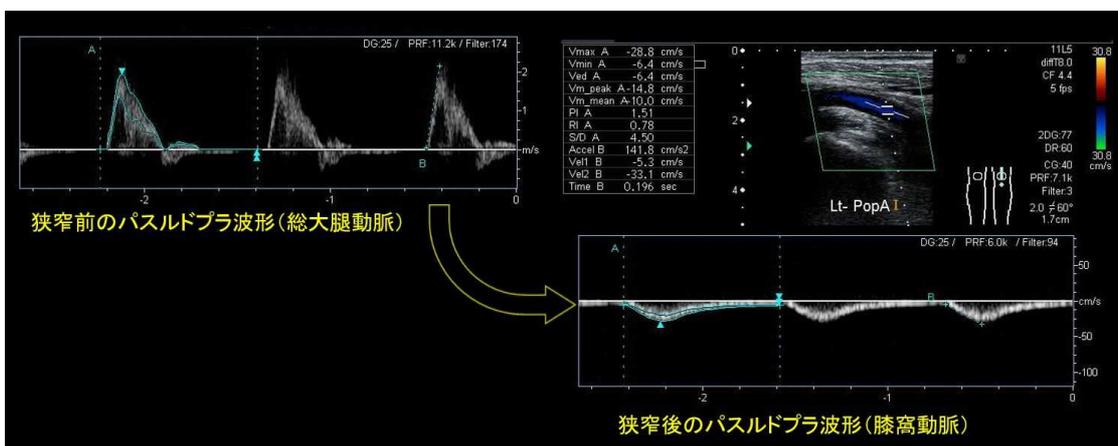
拡張した静脈を検索し、弁不全の範囲や原因を評価します。検査の準備は下肢深部静脈血栓症と同様です。検査は浅くベッドに腰かけた座位で静脈を拡張させた状態で行ないます。Bモード断層法、カラードプラ法、パルスドプラ法を用い、大伏在静脈と小伏在静脈、分枝静脈、穿通枝の径と逆流の有無を評価します。検査時間は、約20～30分です。検査レポートには、静脈の逆流の範囲と不全穿通枝の部位を記載したシエーマを添付します。



症例：大伏在静脈のパルスドプラによる逆流時間の計測。逆流時間が延長しており弁不全が疑われる（左）。拡張した左大伏在静脈-大腿静脈接合部のBモード像（右）。

### 【下肢動脈】

下肢動脈の狭窄や閉塞などの有無を調べ、閉塞性動脈硬化症の評価をします。検査の準備は下肢深部静脈血栓症と同様です。仰向けに寝た状態で、総大腿動脈、浅大腿動脈、膝窩動脈、前脛骨動脈、後脛骨動脈の各部位でパルスドプラ法を用い流速等を計測し、Bモード断層法、カラードプラ法で狭窄や閉塞の有無、程度の評価をします。検査時間は、約20分です。



症例：総大腿動脈のパルスドプラ正常波形（左）と、浅大腿動脈での狭窄後の膝窩動脈のパルスドプラ波形（右）。

## 外来診療の変更について

4月1日より外来診療に変更がありますのでお知らせいたします。

### 外科

金曜日 午前 楊 昌洋 → 服部 桜子

### 呼吸器科

水曜日 午後 川端 俊太郎 → 中岡 浩二郎

### 循環器科

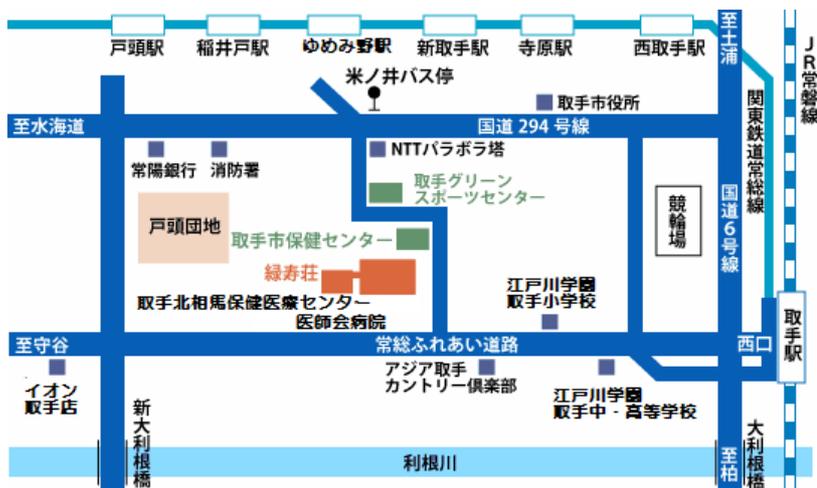
火曜日 午後 榎本 真美 → 診察受付時間 13:00 ~ 15:30 まで

### 胃内視鏡検査

土曜日 午前 星野 優 → 鈴木 武樹



## 交通アクセス



取手医師病院の理念 Heart (心・優しさ)

H - 優しさに溢れた医療 (Hospitality)

E - 迅速で効率的な医療 (Efficient)

A - 向学心に満ちた医療 (Academic)

R - 充実した地域医療 (Regional)

T - 信頼感のある医療 (Trustful)

編集：医療連携室

TEL:0297-78-6183(直通)

TEL:0297-78-6111(代表)

FAX:0297-78-6184

